

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波有効利用委員会 電波上空利用作業班(第6回)

議事概要

1 日時

2026年3月17日(火)14時～15時

2 場所

Web開催

3 議事次第

- (1) 電波上空利用作業班 報告(案)
- (2) その他

4 配付資料

- 資料 6-1 電波上空利用作業班 報告(案)
資料 6-2 電波上空利用作業班 報告概要(案)

参考資料 電波上空利用作業班(第5回)議事概要(案)

5 出席者(順不同、敬称略)

【構成員】

- 主任 藤井 威生(電気通信大学)
主任代理 土屋 武司(東京大学)
加保 貴奈(湘南工科大学)
河村 暁子(国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所電子航法研究所)
松田 隆志(国立研究開発法人情報通信研究機構)
吉田 宏昭(国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構)

【オブザーバー】

- 宮原 有香(国土交通省 航空局)
佐藤 誠(国土交通省 航空局)

6 議事概要

(1) 電波上空利用作業班 報告(案)

事務局より、資料6-1、6-2に基づき説明が行われた。質疑は以下の通り。

吉田構成員：資料6-1のp.68の「吉田構成員」名の発言箇所について、上から4つ目と5つ目は正確には私からの発言ではなく、JAXA久保氏からの発言である。書き方としてはJAXAと入れていただいたほうが適切ではないか。

事務局：機構の名前にするか、別の書きぶりにするか、修正を検討する。

吉田構成員：資料6-2「概要(案)」のp.7について、3点に分けていただいているが、1点目と2点目の違いが分かりづらいと感じた。特に2点目の右側に「上空で利用した場合」と書いてあるので、これは上空の利用として1点目に含まれるのではないかと感じる。また、HAPSについて、左側の中段にある記述で、1点目の携帯電話はビル屋上や鉄塔上に設置された～から、2点目の衛星ダイレクト通信での携帯電話端末の～までで1回切ってもいいのではないか。3点目はHAPSについての話であるが、1段目と2段目の違いが分かりづらい。

事務局：衛星通信の1段目と2段目は、通信速度が大きく異なり、2段目はスマートフォンやSIMカードを挿した端末で簡易に利用できる点が大きな違いである。1段目はより大きなアンテナやシステムが必要だが速度が速く、2段目は非常に簡易に利用できるが速度は遅い。HAPSについては段落を分けて書くことを検討したい。

吉田構成員：中身を見ると分かるが、馴染みがない者からすると、1段目と2段目の違いが見えづらいので、もう少し工夫していただければと思う。

藤井主任：HAPSによる上空利用と書いてあるのは、HAPSを基地局とみなして衛星ダイレクトの代わりにHAPSダイレクト通信のような形で携帯電話を上空で利用するという話でよろしいか。この記載だとHAPSの上に衛星のアンテナを載せて、HAPSと衛星で通信するものと捉えられるおそれがあるので、その辺を踏まえて書きぶりを考えていただければと思う。

事務局：ご理解のとおり。書きぶりについて承知した。

河村構成員：極力個社名を出さないように書かれている印象を受けたが、一方でp.17、18辺りではStarlinkという個社名が多く出ている。プレゼンをされて紹介があったところは名前が出るのは普通だが、p.17、18辺りは低軌道衛星といった一般的な名称で書かれたほうがよいのではないか。

事務局：修正を検討する。

藤井主任：本報告(案)の取扱いについて、本日少し修正の希望をいただいております。事務局で修正案を考えて反映いただければと思う。最終的な報告(案)の取扱いについては、主任である私に一任いただきたい。報告(案)については今後の電波有効利用委員会で報告する。

(2) その他

事務局から、本作業班は今回が最終回であり、電波上空利用作業班報告(案)を今後電波有効利用委員会に報告予定であること、他作業班の報告も含めて意見募集が予定されている旨の連絡があった。

また、今後意見募集の過程で連絡をする可能性、将来的に状況の変化が生じた場合には改めて本作業班の再開を検討する可能性がある旨の連絡があった。

以上